

抑人生天地間
古今未有稱嘆之中
者矣上下二千有餘歲
乎古代人數其若干
而世人不拘於詞

和歌分類一目録
天象部
天　日　雨　曇　曙　夜　夕
地　火　烟　風　嵐
朝　昼

無曲軒

和歌分類巻之一

○天

そらうつす　蒼天を池水に映すことをいふ
池水の波ぢの月の毎夜の秋ぞくまなき　人丸

鳥のつら　大空をとぶ
鴈行等
まちえてそうつるやそのかみ
すみのえの　住吉
家集　并もさそすみのえの
こころぬそ　老若ともに
世のつねならぬ
むらくもそ　大空の心

○月

凡雅 おく 故もろこし 宿の 夕つく日 新木 枕 伏見院
照日 家集 こと れ 日ふ照日 後撰
とよさ のわく日 今集
くもり
これ 天の 日わさ 日わさ 雅有
日新 家集 たく照す 帝の 万葉 人丸
法の 初日 日新の

星

星づく夜 池の面 家集 日の 家集 秋の日 冬の日 入日 照日 夕日 一云日 源氏 三
いつ 日 大空 日 耕し 耕し 耕し

仙門十五首
月の子ゆこそあまれるつと絶よ沖すれ雨の空　後京極
夫木　うらやまし雲ゐに鳴とこそ聞ら　わた雲に
昼の住　秋の中一百首の内
家集　まろかさも昼の昼の住ふかき秋ともなく
昼も見し　時雨ふりくるうらの
・ゆふかり・こもろ・こもろ・
○風并雨風

おまの風　古今　おまの風をこの夏の浦
家集　雨し風　うえより雨をとしうえ二月のおもちくるこそ
浦の風　新　いうこそやうまの風はあれどもうらくせとはの
家集　住吉の風のまのふるの比おき海ふるものふけのふるも

沢風　新　沢風よあまとやあいく交もの同し方もも沙鳥
沼風　同　むろこそろこそれ行の秋とこそて秋やをそのと
家集　くまと竹の叢くまと竹の秋とこそて秋やをそのと
叢の風　後拾　今こそうへ浦り成ねうに常のまの秋の風
まの叢合　夫木　ものこと　ものこと
涼風　家集　吹ともさーのやまのくとりねさ
南の風　家集　けふいこそみこの風こそをそのふるも
吹風　吹うとも

後京極摂政
信実
芋粉侍従
たえ
延成
後拾遺
遠かたん

下枝の末 ふく風にたえず 常にうつりかわりてこのうたあり
うつりゆく 本あるこの下風
新古 夜ひとよきみの四方の秋かぜを
吹くるまもなく ふくらんと
万葉 高砂の 尾上の松の 秋風に
夫木 夜山の 下風 西行
夫木 夜山の 松ふく風の 家隆
初秋風 やくさき初秋風のいねてふるえのうら
本拙の秋の 風
新古 こととしの秋のつま吹めり ふかくさもし 女人恋
枕ふるる 新古 高倉一本の菊のうへの 家隆
風の音 吹くる風のほど

古今 ものうと風の
未来 妹と我行やのうさとふるまで 女則
家の風 家業とり
拾遺 久しくの風の便をあるまで
のり度の 風 家業 うつり度の
まつ風 うぐまと待 風のふるねをと待
未来 うぐまあらんうらと待し 須今の
新六 君さやく秋の暮のうらあ 光俊
風こそ
未来 風あるあきの夜の雨ぬる行
吹こそり 吹かるあきの風のうら
風の秋 風の吹あひて秋

吹まよふ風の枝ふりもとゞめねば　光俊朝臣
夏風　同
夏の秋風　同
ちぎりおきし　千五百番歌合
風しきりにふくころ秋立つ日
秋風　万葉
秋むかふる風音
ことやめの神ふきこすや　同
佐保風　同
秋ごころ　同
初秋風　同
初秋風　同
秋ごころ　同
いつかわれ　同
いつかわれ　同
いつかわれ

文本 水こちよきさの風と出つるこゑもいこまのかたとおもふ 源仲正

まぎらふ 西行

永久四年百首歌

まがきうつ竹のそよぐも秋かぜのおとせぬ庭の夕暮

こちの風 曽禰好忠

果てはあるさ程とうく吹風の心

家集 心あてなる人のかよふ道なれや袖の風だにとまらざるらん

あめの風 素性

百人一首

あめつちの風いそがしき秋にしもこころ安くも人の見るかな

こち風 西行

百首うたの中に

のぼりくだりの舟人もこち風やあらきなみ路をいそぐらん

源氏物語 須磨巻

須磨の浦に心ぼそくも吹風の音にぞ夜半の目もさめにける

五節 紀貫之

なべてもの悲しきころの風の心

心の風 文本 ゆふやみの風 同 うつせみの世のことわりの風の姿

歌 かげはなびくものの風のすがたをしらするとおもへば

すき生飛 古今 秋のすすきまねく風にもこころをつくるかな

あきの夕べ 西行 夕風しるく吹ころの月

合集 まつ風ふかぬまてのみ山松の風もよそにやしるへかるらん

谷の辻風 文本 ちりぬともよそにやしるへかるらん

志賀の風 科戸風 乾の方の風

八雲御抄 風 文本 うつせみの世の風 文本

後案家 後拾遺

新勅 彩船

吹風 後拾遺

吹風 源仲正

吹風 後拾遺

ふるき風　右の風海ともまさに吹ふるめいてき
伊吉社百首
右き風に花の精小野小町
せきの風　せきの風海
千首集
山おろしおろしてきの風ものふるさと大物浦
家集
ふるき風　和哥の風海
ふるの濱に言の葉風よ
伊勢物語に出
あき風　伊吉社百首
こゝろにもあらでうき世の風のあき風
嘉祥の歌風　伊吉社百首
そんなふうきの葉おとしの風
夫木
冬風　冬の夜のふきの風ふくる
風海　和哥
風海　秋の雲のあまの風海
須磨
神の風　伊勢物語に出
玉くしげのほりもあくる朝こそ神の風
後撰集
風海　海路吹ふりの風
西行法師
海路のの風

大伴百首
海路のとまの吹ふきの風
遠雲々
ちまき　同
風のふくにつけて
源宗于
あふぎ　同
海のうへにて
体言の風
とりわけ山の風
体言
人のいひ出たる風
きくにあふぎの風
吹ふくもあり
同
おく山のあらしもまだきの風
和泉式部
風ひやう　同
秋きては風ものうきをあふぎ
絵札

風りやうこ 古今 ふくりやうこ ふかの風りやうこ
ゆるをさ 風 ゆるくさの風之
同 朝もよいさゆるをさまて
吹ら風 吹風之
三百六十首 独めるねやこ人おもひ
秋風 伊勢 あまのもよりあふりやうこ
家集 十六夜二首人の濱ちどりあはれふりやうこ
天王寺百首 一夜ふる秋のうらの波
浦おほこ 毎日百首 むらの山ちひろ風の浦やふかふく
ふる根おほこ 夫木 ふくさをさくさ山おほこ 吹あてこゑひくをふく
久山おほこ 夫木 ふくさをさくさ山おほこ 新六 秋のさてさをさ山おほこ
谷おほこ 吾あひうら吹ちる風之

吹ちる風 拾後石 吾あひの風 一
門おほこ 正治二年百首 きくさこれんさ門おほこ
毎日百首 波の音ふふさ山おほこ
わくさ山おほこ
夫木 秋のふもあれ山之
隊山おほこ 同 ふもの濱や秋山ふもあれ山之
ふくさ風 同 秋ふもの分吹ふもあれ山之風
甲斐の根の遠ち公百首 まつのふもふ風之
神ふこ 神祇のふもねふ吹ふもあれ山之
文永元四大上奏与 秋しをさをさくさ一の秋ふもあれ山之
ふくの 南石 ふ清ふふもの山ふもあれ山之
わくの風 吹ちる風ハふもあれ山之

ふにふ月さへ入て空しの風吹ら八空をとそもよ　さえん
山あらし　嫩　山風のこねそ子風よりくもをきりひろふ　後拾
実あし　元白　笑あし　都をふ吹やさ流のありつの里ふるら　春日
あしの比　定本　みねの雨も秋うら・まもる時うの風のおとをとさ心て　続拾
ううの風　風おうらあもまとと深の梢あとふうをとつつあん
　同
　あの梢へ雨とみうの風とあとあ〜といふてまつのろうく〜
まさ生風　家集　ねさ心ふうし秋うあの方生風吹ひ　二の風詞ア
風の花　新後拾　石ひくとのそしなまさう洞うふ風の花ふ　定家ア
風の音　新勅　むさう風の音あそふり秋八秋ふくり　八ろあ定家下
風のこえ　定本　秋ふさう風八頃やそ秋さめふさう花　の梢

風の風　石ひ　松坂のあしの風八ふを風と行来ふ秋八後ア侍人ア
沖のりやら　あらく　風ふ吹風ハ
　貞享二年百首　流ふ手決りやふ
・まき風・秋風・ふら風・ふ風・夕風・新風・ふ風・北風
・浦風・法風・沖風・波風・志ま風・谷風・松風・陰風
・ふ風・ふら風・ふさ風・ふ也・あま風・
あり方風・さふ風・ふ風・おふら風・こり足・ふ
ふ足心ふを・ふ子のう風・志まあいく後新・あ足
ま也・風ふをふて山あり一吹ふをつり風ふうふふ八
秋あふ風あふうをとやく又万葉ふ波あろう
ふあふうとうあふこふ毎のまふこう一八秋ふのふ
ふ足のふ風とをふり・ふやふ　賀風法楽抄

・谷風ふくころ春の雲を待つ里　以上八首山村
・花の上風・梢の風・夕の風・秋のころを
・秋の夕風・冬の夕風・風きりて・波路に寒
・さよ衣・竹の風・こゑ山風・ころ〳〵
・初あし・夕あし・小枕あ〳〵・あ〳〵
・ふくかし・こゆるあ〳〵・山のあし
・ふくさのあし・さくあ〳〵 後の方なとよるをて・山の夕風
あ〳〵ふ
とふ・あ〳〵いのまを・あ〳〵ころ

以上五首及旅宿

○雲

雲と水　雲と水とのこゑあるひは雲をわけ

ぬるのあとハうすくてうすく行ともつ

天つうり行ともつ

朝のくもを　新
ゆうちくもは　拾集
秋山のふもとのくもを　拾集
白妙のころもの袖のくもと　古今集
白妙のまきの弟篇ころもうつ　古今集
あ〳〵りやま　凡雅
神分ふもとのまきの　凡雅
うへさのまき　新ふもとのうすくもを

以上二首山家

以上二首山家

以上二首山家

秋の歌

玉葉
秋の夜やくらきを山風のよくこのきを吹あらし　寂蓮

家集
久方のこのほどしぐれふりにふるらめの音ある夜哉　家隆

拾遺
秋風吹くる夜半の月哉

新古今
きりぎりす鳴くや霜夜のさむしろに衣かたしき一人かも寝む　後京極

家集
久かたの月の光やもはさひてちるの籬とりつめる　家隆

新古今
ながめつる今日はむかしになりぬとも軒端の松は千代をへぬべし　後鳥羽

家集
ふるさとの月さやかなる秋の夜は昔の人ぞ恋しかりける　後鳥羽

新古今
ふるさとの月のみ澄をながめつつ昔を恋る袖の露かな　後鳥羽

新古今
ながめつつ思ふもものをおもはずは月をば何と宿の秋風　後鳥羽

玉葉
ながめこし袖の露さへ昔にて宿かはりたる秋の月

めやし・やさ汚・みめやし・汚みさま・さまのろうらう
以上三文独立
○兩

あめの糸　あまといふむしくひて
宝集　うさぐらし乱る汚るあめの糸の乱れ汚るる道も後
一味の汚　一味汚るあめの
夫木　知とのごとひの家とせて小うさ家の雨ふぬ神
うさぐら汚　あらさのあやうさ汚るあめ神なくて寺私てくる汚
あめもよ　雨もよ
玉葉　あめとうふ物うへくらん人りあさ
宝集　恵の汚　汚集　川とくて汚のまき松のうまく汚よまの汚といてうさ
あまぐさ　あまもりひとそ

旧聞汚　夫木　とふらにうさまくてまそ汚めへ神とうやう
汚集　汚　ろりとうう物うさ汚のみり捨てうさまそ
あまく　雨のはまうさ
日　うさまそへ五百さまの雨の時すまのとあまくもうさ汚
新六　らこあめ　うさうも汚よまうさ汚うさ
うさとう汚　汚
汚　うさとうふ汚
新六　おくりのみのさまのみそ
あめうさ　雨うさ
あめのさ　雨のさ
源氏夕霧
うさあうさへくとあめうさ

こーあめ　細雨　とうとう
日　注ぐこと　ひっきりなしに降る雨　落葉雨
あぢさゐ　紫陽花　二百四十日ごろに咲く　和名抄
　　万葉集
さみだれ　五月雨　五月ごろの雨　和名抄
　　万葉集
さつきまつ　五月待つ　五月ごろの雨　万葉集
　　万葉集
ながあめ　長雨　秋の長雨　万葉集
　　万葉集
・ゆふだち・村雨・あめふる・ふりくらす・ふりしきる・ふりつづく・ふりこめる・ふりいでて・ふりはれて・ふりやむ・ふりやまず・ふりやまぬ・ふりやまざる・ふりやまざらん・ふりやまざりき・ふりやまざりけり・ふりやまざりけん・ふりやまざりしか・ふりやまざりせば・ふりやまざりせん・ふりやまざりせんや・ふりやまざりせんやは・ふりやまざりせんやも・ふりやまざりせんやぞ・ふりやまざりせんやこそ・ふりやまざりせんやなど・ふりやまざりせんやいかに・ふりやまざりせんやいかで・ふりやまざりせんやいかにして・ふりやまざりせんやいかにせん・ふりやまざりせんやいかにせんや・ふりやまざりせんやいかにせんやは・ふりやまざりせんやいかにせんやも・ふりやまざりせんやいかにせんやぞ・ふりやまざりせんやいかにせんやこそ・ふりやまざりせんやいかにせんやなど・ふりやまざりせんやいかにせんやいかに・ふりやまざりせんやいかにせんやいかで・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにして・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせん・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんや・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやは・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやも・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやぞ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやこそ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやなど・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかに・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかで・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにして・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせん・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんや・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやは・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやも・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやぞ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやこそ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやなど・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかに・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかで・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにして・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせん・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんや・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやは・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやも・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやぞ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやこそ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやなど・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかに・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかで・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにして・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせん・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんや・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやは・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやも・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやぞ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやこそ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやなど・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかに・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかで・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにして・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせん・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんや・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやは・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやも・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやぞ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやこそ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやなど・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかに・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかで・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにして・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせん・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんや・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやは・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやも・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやぞ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやこそ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやなど・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかに・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかで・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにして・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせん・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんや・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやは・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやも・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやぞ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやこそ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやなど・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかに・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかで・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにして・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせん・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんや・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやは・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやも・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやぞ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやこそ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやなど・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかに・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかで・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにして・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせん・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんや・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやは・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやも・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやぞ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやこそ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやなど・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかに・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかで・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにして・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせん・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんや・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやは・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやも・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやぞ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやこそ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやなど・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかに・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかで・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにして・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせん・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんや・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやは・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやも・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやぞ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやこそ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやなど・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかに・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかで・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにして・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせん・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんや・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやは・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやも・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやぞ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやこそ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやなど・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかに・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかで・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにして・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせん・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんや・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやは・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやも・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやぞ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやこそ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやなど・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかに・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかで・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにして・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせん・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんや・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやは・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやも・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやぞ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやこそ・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやなど・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかに・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかで・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにして・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせん・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんや・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやいかにせんやは・ふりやまざりせんやいかにせんやいかにせんやも・ふりやまざりせんやぞ・ふりやまざりせんやこそ・ふりやまざりせんやなど・ふりやまざりせんやいかに・ふりやまざりせんやいかで・ふりやまざりせんやいかにして・ふりやまざりせん・ふりやまざりせんや・ふりやまざりせんやは・ふりやまざり

いーの矢 すえ こう矢やうの矢もあさの矢の中よりよりて記 昨日
はうの矢 新六 おもて矢 さうの矢のかぎり千ぞあこ伊よりもつくる矢 新六 これを両矢
胸のつぎり矢 日 くつさうりくつさとをもてうり物の商矢 作りうる
いそうり矢 古今 おまし矢 古今 おもて矢 新六 これを両矢
くく薄の矢 日 すその浦やおもの筋をもの矢 新六 これを両矢
つぶて 雄略紀 なくてこの矢とをとりむくたわのをさまりて打ち失ひぬ 昨日
雄略紀 そをふくめる矢の神この雷庭も乱こと世こと怨 ふるおこと
つぬひの 万葉 ちはやぶる神のみ坂にたむけする 新六 これを両矢
ちはやぶる神のみ坂にたむけする 万葉 ちはやぶる神のみ坂にたむけする
ちはやぶる神のみ坂にたむけする 万葉 ちはやぶる神のみ坂にたむけする
ちはやぶる神のみ坂にたむけする 万葉 ちはやぶる神のみ坂にたむけする

万葉 ちはやぶる神のみ坂にたむけする
すてこのとものとりまもりの矢 中務 これを両矢
松月のまし
松の矢 文本 松人のとり松のかの矢の旅ごもりさ神坂の曙 中務カ 新六
野矢 新六 野をとうくさと
むの矢 宮年 うとをとするの宮まのとうの矢 新六 これを両矢
胸の矢 むものの矢むものの矢もよろのとをみてうこと
文本 胸こそ矢ぎ古今 人ふわり八月のあさのかぎり 後拾遺 胸の矢 後拾遺 胸の矢
胸こり矢 古今 人ふわり八月のあさのかぎり 後拾遺 胸の矢 後拾遺 胸の矢
あこ矢 おきわのつふとをとうくくく

あ〻史　芋と史ふくく
新古　狐好ゝれ子そくく芋史の経ふ句そ　ふろふ
彦史
新拾　狐の除ちふ
物名　あふてまふくあふ
とり史と
保安二年六々　山伏の指の泊ふ
ふの　ふふ月ふふもふ
あのふ〻　灯のふ〻ふふ句ふ泊ふ
のふ〻万治　灯のふ〻ふふ
永久四年百　灯ふ入ふ史　灯ふ入ふ史　灯ふ入ふ山ふふ

凡のふる　ふふふ

・いさり火　いさりびとも
・うらみ火　・うらこぎ火　・あまのいさり火　・あさりひ　あさる
・こぎ火　・いさり火　・つり火　附と八雲の部
・もしほ火　・あまのこぎ火　・うらこひ　・もゆる　・こがるゝ
附と海辺の部
・こまの灯　・こひのこがれ　附と恋の部　・灯のむすぼゝれ
・うらゝ火　・うらの灯　・沖の灯　・ともる　・

○烟

烟こもり　あま　遠もて見て　毎日たて　おもひ焚　海の辺の部　烟　あま乙

烟さびし　附と八雲の部
一むすべ　家集　おなじ
烟すみ　家集　おなじ
烟すみ　家集　おなじ
烟すみ

こうもり

○蝙蝠

つくもおさと云の流こ

苔虫の姫、ひもを小苔虫の緒にはしてくゝりつけてとぶとぞ云ふ 李郭注

井やく燈 万代 さま〳〵もむしなどやゝもあれど人こゝろの昧くて姫こゝろの闇きぞ中々

烟のやうに 老子 むさ〳〵のくこゝろやうふまと云ふ烟のやうに色まよふ心 後漢書注

こゝろ姫 素 を消るおのへのこゝろの底 雅世

・ふしの烟・わさまの烟・釣をの烟・久もの烟・ふりく

・そゝかの烟・まつ〴〵の烟・炭がまのもえ〳〵・うやりのもえ〳〵

・ものぐく・のちる・さゆる・くゆる 基俊

○麝

うさうの 素

ちりく松のふる八志ろさ落ようとさうの香ぞ〳〵て住うん 基俊

ちりく 円 貝とへつちりやまと私稿 ちりの色のやうにおもふ心 後漢

さふふもの 和門名 ちり 釣日さすさふふゆちりく八志ろの報 おもふ

ちりの月 古今 川のぞふありく宮もの苔のちりの色のやうにおもふ心 後漢

ちりの色 新六 釣くふ法さすまと稿 ちりの色のやうにおもふ心 後漢

心のちり 結探 うろう代の心のちりとれ 後人

それのちり 新六 苔法さくりの須へ 名義四本下

ちりまで 古今 真名序 初人おも 裏門往 麝 しりたる今昔

ふちりふつをくやちりのくふつとれくとろくん

ちりふつをくやちりのくふつとれくとろくん

ちり 円 教ちすぬをとさ動名

ちり 円 ちりおもふのちの中ゆく人宮方の仏のこりの中

○曉

同

芦垣の新こふき本ふく秋の夜の秋風

年の夏　同中の間と若くる年の夏の秋　於遠き三年のあり又年の夏の秋

くさふかねかた夏風　くさかねね焼く心の夏新小まこかのこ抱ひく　恋狂

同　夫木　つよよみこうぬもこ抱ひく

同さうう　同さうう　同

もこあうう　巫山の神女の新こ抱ひく　恋歌

とかるうう　らんとふ契約ようう

新勅　もこあうう

夏ねの床　歌　うふやねの床もこ春もまき方向　後拾遺

○夕

山のタ　家集　こねうこ家の神もうへくのやうこんこのタを　後拾遺

すべめこ　タとすしめうこ時よう

歌　うこ私へすしめうる名う梅や有りうすべうう　乃原

タうす　同　独行行をあくうりうこ鶯同し梅つうまくこう　後拾

タもうう　タふ辺うとこふ山　後拾遺　湯やく人ひうむ会うんこう

タ志うう　家集　うく人打つ庵の春の秋　雅世

タぐも　夫木　山風よ名こあいう時ねぬふこうこ也うつ山也　元ゆこ内大

タあくめ　同　もこようる高の打うつタ秋ねうう　元弘

タこぐろう　タふ山物言のうこうくやく

ゆうるの家路よいうく　仁安

○夜等宮

[illegible]月秋　[illegible]池の面ようすごきもの男秋[illegible]　後拾遺
うきまぜ　秋おさめの心
　　定本
　　あよ行の秋きしうつすと
秋うき　　毎秋ごとものごとに
　　古今
　　雑望よ秋月見とて
　　拾百
小秋をも小秋をしき人待人よ
　　続拾心
さよ風ら　小秋花すきほもきもの
　　月
秋とのと　秋とおもす行のきもの
秋まで　　後拾百
　　拾百
　　秋うきて　みそそて　冬月見そも
うつよ　　後拾遺

月のうち　初冬十月のうつりのきつ
　　後拾遺
さよ風が　うつれきてつうはさ秋子うき
さらみう　さう年と秋うまぬ
人もつまる　まつ朝と人きと
　　後拾
　　つまはいも月の空秋もありてね人のうつうれ
うれの袂　乳　空秋ま小やうてそあ
うつものや　古と　うつものやきのうつ
さうねし秋　古　空秋うし秋も
　　新古
　　ものつもの暁をくは
わをねし秋　かあるし秋も
　　古と
　　をにうつ秋きうまし
うしうう　空のうきう

後拾遺
初冬
後拾遺
傷女門後一条
秋うき
後拾遺
後拾遺
後拾遺

万葉
秋てふことしよ秋ごとに人ぞ待つ
春日
くもゐより花にまがへて散る雪の惜つま恨む秋のさくら　非藏伯孔作

秋毎
こぞの
夫木
秋の山紅葉も
古今
あせぬまよこのはしとのみ秋の夢
秋の夜
秋の夜とうつりくるとも秋の夜とうつりくるとも　小町

同
いとせめて恋ひ侘ぬれば秋の夜の名とうつりぬる

ふりの
秋の夜　後の傳法師
むら雨の露もまだひぬ槙の葉に霧立のぼる秋の夕暮
いもやこふ我やかくふる久方の天の河原に秋風ぞ吹
五月雨の空もとどろに郭公なにを憂とて鳴渡るらん

於遠
古今
この秋の秋の夜を
古今
秋毎秋風のこゑをきくらん人をとて
おくる秋　おくる秋の

後拾
おくる秋の月
古今
秋ふかみ
秋ぐれ

同
秋をすくる

同
九月尽のこころを
玉葉
こめてこころ
秋ぐら

玉葉
秋風の
法橋
人の歌の心にやふあはれをみとも思ふ

和歌分類卷二目錄

地儀部上

山並尾上　嶽并根嵩

泊　坂

関　驛

橋　野

石并岩叢土砂

松　嶺

林　原

谷　路

森　田並畠畑

和歌分類卷之二

○山 春夏之

あしびの山 同春

このくれの八ヶのあしびの色ふかみ
まよふ山路に春風ぞふく 亀山院御製

山のうへや月も半ばの山ざくら
さくやこの葉の雲のかけはし 後光厳院御製

吉野山こぞの枝折の道かへて
まだ見ぬ方の花をたづねん 後柏原院御製

山ざくら咲きぬる時は白雲の
たつたの山ぞ名のみなりける

山下ゆ咲きのぼりくる花なれば
山ぞ高嶺の雲かとも見る

あしびきの山ぢも知らず春霞
たつたの山の花の盛りは

ちはやぶる神代もかかる山ざくら
今幾世にか春を重ねん

行のゐ山　同
同　久まくま行のゐ山ゐ緑きれとれしらう添さまの若　万葉院
若山　新　ゆゐろそさこうゆくろ物自新もて若山のさゐ　同
まがこの山　通路のくまのまうろ尺しあんとみうり山
こう新を山ふこ
緑な　月こそ新りやこ人久さの新の山まるあむ　仕二院
和泉の山　そこをい家のそこ　後拾遺
みそをかをかの山ふこ　新六
そのよの山　新　くまゆいそのの山ふ吹ぬまそんこ　万葉
里のわ山　里のわのうもをこ人のこうあ　万葉
しくる山　ゆふありとひうるこ

山　同
ちうひ山　山花の人山のてふこ　万葉
山　同　山ゆこちうさこ
さ山ひとく　さ山ひちうさこ
山ふこうを行花そさ山そ　万葉
花のそる山ふもこ
家集　くうしあくもあくの　逍遥院の御さ和
延文百　山そさ新のその河をいくあ山そなうる　みそ
山そさ　新　伴　うひくふさてくる山の春の秋門　万葉
花のく山　同　まこそれ作ふこりん新　雅経
花ら山　新古　楠　さ八そのうひもあうり花こ山の秋のあ　家集
花のちげ山　夫木　うもとくこさ花のまを山つまくよこと月四のあ　仕文

山づと　山人
山集　山づとにけふはつむとも
山のとぞ　きえ侍しみ消侍し
まきもくもふこねまこくまて
山のかつら　まきもくの山のあるかつら
あるかつら　まくさかりて
まきもくの　まねおりくまきもくの
うさこりの山　まねおりくまきもくの
まきもくの　山ふあしねわりねの名浪ふ
こうもく山　万葉
まきもくのこうもく山をこえてゆきいかてかとふらん
まき山　新六
まきの山のまきのとかりや
亀のくかる山　蓬莱山

山のくそ　山のこうこそ
まき木　まきもくの山のくそ
まきを山すげ　万
まきのやま　新のまやまきのやま
まひの山　新のまやまきのやま
公の山　万葉
事肥の山　肥後橋の事肥の山
らくらの山　らく山　記徴云ヨリ

ありくあそくをうまくあしのわまりこと

そり

石そ
清まりやくうちひらのやまもさのき 躑 同
あをえ面そ
春世のちり 積りもくうまき世の雪をて雪のさ山の八 雪清て
久こえゆをへ 多おこしゆもくうくし久こしもあり
夫本 青根山 多こし久こえの頂そいさらまみこ阪 雪後
山もこ山 新紫 雪降こ雪のこまるふあ ちこ雪降の如
山分え 山後と分行後
今くうやふ山をえこくうり 雪世
くふ山まぎ山 はくふ山ふくりくふをくてもも山一
新古 つくり山こ山まを山まをふ山まを 清こ之
おのもの七 は面彼面くはくふ山のようりこまて清氏地終ふふ山

のをと乃はふひくふ
河このをとをふ清ふあまこ山こ
古ヒ大ふ
はくふ山このをとのをふ清ふあまこ山こ
奥こ山のおく 新古 うくト 奥こ山のおくうくと 踊こそ
奥こ山の 古今 すのね 奥こ山のすのね清こ海ものをねこふこの所 清こ今和
ねをの故 奥こ山 山ふもをふふもふ
ねをの故をふの故奥こ山 同
ねをの故をふの故奥こ山の清こ山をふ山ふもん 同
山ふの 同 ふくりの山ふのふくまてこふつ山ととをこそのね 同
山ふこ 晴ねふる 故人ふふくりくふこをふ 同
枝のふ あふ山 新古 荒山八和れふのふ山ふまみまて 師河約ト
ふふくふふむすま枝のふふあふ山ふまみまて 清ふ山教生
山の清 同 ふ枝の山のふふねの故八まて 宗八の同

後撰
[illegible]の山さとにまかりて侍りけるに人の
家集
[illegible]
山まろう　山のうしろをまわると故郷が見えて
山のひ　山のうしろをまわると故郷が見えて
古今
[illegible]
そでひ　山ぢの[illegible]
万葉
[illegible]
[illegible]
久安百首
[illegible]
山もせ
[illegible]
秋山
支木
[illegible]
時雨
[illegible]

山ぢ約　秋とまねきもよおすうら吹きの
新後拾
山のふも　[illegible]
新六
山ぐさ　[illegible]
あら山の原
[illegible]
ちり山　[illegible]
新六
[illegible]
山ぶ風　[illegible]
山のうも
支木
[illegible]
古今六帖
山あし　[illegible]
家集
[illegible]
山のした
[illegible]

おまつの山　枕ある所のつゝき山あるをいふ
みつゝて夜のつきをまつの山
ゆふをあつ
源順朝臣　もとよりもくもるまつの山のわれ来ぬ世の中月もこゝろ
山ぢ　山路よ分てもふみ
万葉　ゆくゝまのゝ秋のうやあゝねもあるゝまの山を　二首和に歌
ゐのもと山　以下久不知
支本　知まてをこゝろまつ山のもとをれい紀
万葉　まつ柳のうつくし山ふゝ
いつさの山　さゝ浪やまものこゝ風吹ては月さゆる　遠き浪
すゝ深のくまの山すゝ深のくまの浪さゝ紅葉
富士のねや山　和山ゝゝゝゝ山ゝみる山

ゝゝゝゝ

・こやま・あしうの山・こやま・海山・
名所又山の歌にも
よめりうらと
・うく山上田・山びて・山ざく・山ごし・山橋・山
・あづまの山・松の山・みやこの山・みやの山
・みね山・こもり山・こもり山・神山・うつゝ山
江とよめり及歌枕

○嶺 并招望

やまの尾 家集
久しくも本のるのくをも松のつゆもの 枝 定家
ぐらし 古今 連久元百首
雲のうへのぐらしみやこの尾ちかく 俊頼
家集
ぐらう 未六 いつのまにふかくもるらん尾ぐらして 法性寺殿
ぐべ 未六 いまもさくらふかくもるらん尾ぐらして 乃家
ぐべく 良経公百首
ぐらのみねの松葉の里よやすくもくれぬといふくらのみねの人 同

尾のうへ 門大ト祓百首
うちなびくみやまん時もうへのうへの尾の松 定家
白雪の 仍雅
白雪のふりしく時もうへの尾の松ばかりこそ 俊頼
もやはの 家集
ふりしく時もうへの尾の松ばかりこそ 定家
ふるの新
ふりしく時もうへの尾の松ばかりこそ 定家
古今
白雪のふりしく時もうへの尾の松ばかりこそ 俊頼
未六
尾のうへの松のつゆもあらじとや 定家
ふるの
ふりしく時もうへの尾の松ばかりこそ 定家
松のこね 新後拾
ちとせふるみやまの松のこねよりは 光俊
雑室の
やまとうた 雑室の雪乃添ふしるしなれやしんやとうた 宗尊
未六
雪つもるみやまの松のこねよりは 宗尊
尾つゞく 未六
尾つゞくみやまの松のこねよりは 知家

○ 松

そまくろの　　本
　　松くふ路やまくろさとしつまるの松もくろく　松を納る
松川の　　本
　　松川のふしくれ　ふしくれ川くれ　本ともよめり
　　松川のとのつくりかな　笠かあるふしくれ五月雨の江　雨雫
こまつばら　　本
　　す賊の男し　もとめ
　　ありとうこころの松あの雲深きまつ男の妻隠　後二
遠う松　　本
　　遠のまもるうこころと松ふこころとそ

（新六 こ海）み景の八人にあらそひ（こ）えらび問ふ

北野の景 日 雲さやく 北野の景の風雨をもとめ神し（水 末後

夕つくよさ（古今）夕つくよさこそや景（新撰古今）の花のうつろひもはてぬ

景のうど 新撰 初雪の景のうつろひもはてぬ

あさひこう（おそく）やくさす景 あさひこそ（万葉）出てくる向の景 人丸

向ひの景 末本 くもれる景 末本 くもりのそらの雪のあけ（万葉）ぼの

景のあけぼの 新六 雪や神世もたつまでや景 陰元亮 陶淵明

・景人・景人のさと・とりべのさと・おなれのさと 松下見林 陶淵明

○路

朝こち（陰元亮）おもうくるも路人も（新六）雪の路 新六 景神のみち（万葉）

いでそひ路 河あそひくるもをかしき（新六）

ふるき路 新撰 宇路こつみやすめり（新六）

いもまやこしの雪のふるみちもやすれすき（新六）

春のみち 末本 まゆみふまくおしき春のみち

神さく路 新六 神のみ人のさくふみ（新六）

雪こち 末本 景ひ出くる人の神さびやおくらん（新六）

清きの路 毎月一そ さく清やさくひのみちをさして（松下見林）

勅ほとゝきすあやめかつらをかけ勅ほのつゝきくまなくあけとうくく
むまやの郭公
古今 ほとゝきすなくやさつきのあやめ草あやめもしらぬこひもするかな
むまやの郭公 拾六 拾人のこゝろこゝろにほとゝきす
ふたつきこゑ 郭公よもあけやらぬ
同 夏の夜のふすまの下のうすければ
郭公 同 ほとゝきすなくや五月のあやめ草
郭公 同 ほとゝきすなくやさつきのあやめ草
郭公 同 ほとゝきすなくやさつきのあやめ草
郭公 同 ほとゝきすなくやさつきの

○林

動の林　家集　まき柱の柳の揺わくらん　直き後
くりの林　續林古今　白妙くく資賢のくりすり毛ゐ　よひもし
うぐひす
同
くやくよくんの山もとうぐひす
ふるさと山林　家集　ふるさと山林くく
こし山林　支木　林のくてぬさし山林くく　同
日ぐ林　くくくく

杜のうそ　名所にもうそ杜とよめり　万葉
春の一村　新六　むらさめの露もまだひぬまきの葉に
秋のまきむく　名所　秋のまきむくの一村　作文
もりくる月　もりゆもこの杜の繩もてゆひて　家隆
山もの杜　もりゆもこの杜の繩もてゆひて　作文
春のもの繩　秋杜のあるこの山もの　定家
新　あらそはぬ春のしるしや　家隆
春のもれ　定家　いづくこの杜のもりくる
・もりの下露　・もりの下露

○椙

まつのすぎ椙　家のまへにまつあるおほきなる
古人　まつといふ椙ではゆふうんちのあれば　土町
のきのまつ

椙

定家　椙むらねの雨やあらん　細流抄　椙の雨　海松雨
新　椙むらねの雨やあらん　細流抄　椙の雨　海松雨
家集　椙むらねの雨やあらん　細流抄　椙の雨　海松雨
椙本の椙　芝の椙本の椙もとのさよ椙　土佐方
家集　椙むらねの雨やあらん　細流抄　椙の雨　海松雨
椙本の椙　芝の椙本の椙もとのさよ椙　土佐方
家集　椙むらねの雨やあらん　細流抄　椙の雨　海松雨
椙本の椙　芝の椙本の椙もとのさよ椙　土佐方

おのくの系 源氏物語 ハおのくのおとゝよりうけつたへてもちゐるなり
まきの系 源氏物語 新古今 枕草子 清少納言 古今集 万葉集 後水尾院御製 門人ト
古の系 同 枕草子 万葉集 古今集 源氏物語 新古今
枕流の系 万葉集 古今集 枕草子 源氏物語 新古今 同 清少納言 門人ト
・枕系・ちりく・さく
・おきのやをりく・くまなくすみ・まくすみりく・ゆふ
りく・わらふ・くもりく・ちりく・まつ系 源氏物語 新古今 枕草子 清少納言 門人ト

〇田畠

あま田 あまくに 同 あまつおきなどの海ちかきところの田
苗代田 新 うゑしろ 耕して苗代にする田 耕作
うゑしねの田

山田 やまだ 文本 すこし勝男と 文本 はるかの山のふもとなどにある田
水田 文本 人あるふもとの田にあるつゝみ程にひらけぬ所の田 源氏物語
枕田 文本 山里八秋をはじめ琴枕田などゝ 後成歌
須田 新 うゑ 凡は須田のたぐひ
漆田 同 うるしとふあるに用ゐる
同 久安百首 冷泉家時雨亭文庫 ふゆ 新古今 名寄 門人ト
沢田 あるところ 源氏物語 枕草子 新古今 名寄 門人ト
御厨田 御厨人家のそばにある田 家集 御厨方の給ふる田 枕草子 源氏物語
あら田 新古 あらた のこりの荒たる田 清輔朝臣

あま小田　あまをぶね　千々ちゝ　ちさゝすよし芝山田の沼よりも
うらふ　うらふりみをも　袖漬ぬれば　玉藻
そい田　山のそいゆふあるとのつゝまねよりて　新　みぬ浦のそら田のみのつゝまねよりて　古治二年百首　秋のくまとゝしくもしの山里の　新六　そのねいむくまゝしく　沼田　みのさの　田のさらのれまもふあるふ重七云
さわの　田　あるそら田のさみのあるあらまさせとや　幼家　とゝさ小山田の　後撰　雅世　あぜのたゝ　田

いあぐさ　稲苗　田　宝鏡ハらまもうまもうまもう

ふる田　新吹　田めぐりの流の流田の末にひくまゝあせの細　夫後
うき田　夫本　うきいと流し流田と云
　　今ふるみもまをすなり流さ流のうき田さうき
うとぶ　田　苅うる小田し
　　うとうきの時のとまもまる雲動りてうとすれ行うく
川そひとき　川ふそひうる田し
　　集　あさきうる川そひ小田のちをつさまのめさ流うく
うき田　うやの田し
　　家集　やまもうまやみうる
川ふ田　田　石むろふ　かんだ　たのうう
　　此田　此田　川事をさうひて
此田　此田　此田　

ゑつち田　ゑつちとくわふとのつゝみせゝるゝ
　　いね
　　ゐなとの
　　ゐなかみ
　　ゐなかみ
　　ゐなかみ

あわ畠 彩六 そうまるそう畠おおるうちのこと(あろう) 作之夫
実を生ず 日 流よわるく実よまの畠芋よりもふてもも毛物そう 知恵
をを山畑 百そく 彩古 そうまるをを山畑の庵ふ仏本の姫のこと
ふる畑 彩古 古畑のそりのさふ 西行法師
畠を山畑 彩六 門そう焼山畑のもおれまることゆみさ物語 作之夫
畑やく 日 ふ畑ふそう焼畠の名をもそこへ畑さ姫ふ 作之夫
くさ山畑 家集 ふそうこと山畑の古法てふつきも知ぬ夕をふれ 雅経
物のつけ 夫木 人のす毒畠おをまさ山法の事の姫の 雅経
・さう田坂・和田植・ふの田・むしろ田 万葉
・さくら田日・ふつ田・こそ田・あしり田 万葉
・そう田・ふ田・秋田・みのそう まさこそ
・ゆくねまく 田将 苅く ・田を・田面・あまのくらさ 山里

・ふりふ・ふそ・ふの田・秋の田・みの田・田のも・秋田のも

山上 八重山吹

○石 苔 岩 巖 ふ物

神のふ 東歌 ふ神ハ汝子ふそ畑のふの小松もこねらく 源俊
ふられふ 神ふふそ畑のふふ畑よりふ 彩故
いそのふ 遠俗 久方ハ日ハふ日ハふ物ふ 彩故
むふ 彩 ふ物ふのふのふふ物ふ 源俊頼

和歌分類集卷三目錄

地儀部下

海　湖
江　磯　河　泊　湊　濱
池　澗　淀　汀　崎　浦
瀬　岸　州　渡　洲　瀧　門　嶋　浦　潟

澤
水

泥
枝

井
治

堤

○海

絹の海 をし梁
あふみの海 淡路国にあり 支木
八海 あふみの海 日 淡路の海 支木
らんの海 家集
しらなみの 都の海の ふるさと西 支木
あくうの海 家集
なにはの海 飛鳥
ゆの海 遠き江の海

家集
沖つ風 西吹き渡して言ふなる海の名も秋やそふ 西儀
支木
なにはがた 海辺をの 海なき所 仲国
海まき寄す神 源氏物語 須磨の巻 海辺をもやつし
源氏物語
海よりも深き神の心を 私案 妹背の神をもやつし
のぐぐ 源氏物語
まぐくし 玄賓僧都 海よりも深き神の心を ふしぎ八幡のやとあるは
まぐくし 枕草子 まぐくしきもの 海をとりくし
いさごの 支木
いさごなす 白妙の波のてゆふ 後撰 ちはやぶる
まなの海 後撰 いさごなす 白妙の波のてゆふ
海とりの 後撰 海とりの 遠き江の

新六

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○湖

○渓

やしろの浜　八百日行浜くだりて家集
・浦人・浦風・浦ひさご・浦のもろこ
もろふ・もろこ

○浜

浜千鳥　家集
あすもこむ月の新よもやそれ拾遺
浜のまさごの　万葉
浜のゆふ風　家集
ふきかへしつつ浜のひさごの
浜石　家集
久しかれとや君をいのらん

浜のまさご　家集
み統浜のまさごのあとも
家集
ふりぬるこの海の浜を秋の白波
浜田　支木
まこもかる浜田の浦の
新六
浜ささ　もめこふみ沢べの浜ささの
浜づら　つるのあるやど
支木
こそ世にあれ秋の浜づらの
水浜新家
ありあけの月の新
浜風　万葉
浜ゆふ風の
浜ささ　家集
浜のあ　杜門の吹そめの浜のあ
浜ゆふ　万葉
ありこいくへもかさなる浜ゆふ
家集
くもまのうらみ浜ゆふ

○浦

新六 うら 浦よりの日 浦よりも 日 うらの 文本 をも 新六 弘 新六 日 うらの 日

百うら沙の 浦の神 浦波 浦うら 浦うら 浦うら

浦浪 文本 百葉 新古 新拾遺 源氏物

浦おもて　西こぎ出る浦の浦風ひやゝかに吹くる夕暮　三條院
浦かぜ　11集　浦こぐ舟のともづなもうちわびぬ　万葉
浦てらし　万葉　浦てらしてる月の光にあさりする鶴の声さへ　後拾遺
浦なし　多の浦と
数　さゝなみや志賀の浦風いたくふけ比良の高嶺に雪ぞ降りしく　永縁
浦のあま　同　浦のあまのすさびにもあるかな月のかつらの枝ならすとて　永縁
八十浦　同　おみなへしあまの八十浦に咲きにけり　万葉
おみな　同　あまの八十浦ふりて漕出ぬともよしあしの舟　万葉
浦さゝ　新六　こぎ渡る舟の梶の音さえて浦さゝ波に月ぞ更けゆく　作者
浦ぶき　同　浦ぶきて八重立つ霧のまがきにも秋の深さぞ見えわたりける　永縁
浦ふり　同　浦ふりて八重立つ霧のまがきにも秋の深さぞ見えわたりける　永縁
新浦　あしべふく浦風さむし新浦の松の梢に雪ぞ降りしく　作者

○浦

浦風　家集　浦風のおとのみ聞くに夕暮の秋の寂しさ　家隆

漆 ウルシ 新六 ヌルデ ウルシ 漆 ウルシ 漆 ウルシ 漆

○迫門

○洲

○津

八十の
あはせ　千載　天の川よろづ世までの数ならん　二条太皇太后宮肥後
七夕の夫つひとつ

○河

新　流れ
あるす　さらら海の浪のあ〳〵行よすむさ中つ月のてりかの風ひと　年経
神のいろ　新六　門あるさ漢の神のいろのすふちくふあるものさうり行さ　むく
のす　文永
河さらの　うもあるすさらさの　いつく　新古　みさうれて　秋風伯　所神
神つ河　うもあるる五江の浦の神つすふ秋あるさ月のさ　名
月の名河　家集　海さらの月の名河よあるさの神さうもうも歌のさ　道を後
河河　あそ　ふあるやる　よ純とう年つあるもうたいの　み事
白河の在　八雅　著あるいろふ事りみさの白河の毎の秋のうの月　永後の後

浦の浜河　文永　小野さる浜やさうらん風の浦の神さふさあるさ　平後期
さやう河　新六　さあるる久雄さ浜河よりふあるの漢河さうりふあるも今ふやう　うさ
おれ河　旧後拾遺　みくさる漢のあるさ
白河の集　金葉　浦をさるまつ千
の一私　文永
あう河　さまふくのあるす　旧　雄
さるる　ます　雄さるものもうさ

○滝

さらら海の　滝の音ちう
　滝石
ちさらふ新さ
滝ちうさ　滝ちう滝川
　滝落石
うさあるさ　滝落石

あこと河　神のあこと河のつまこくのあり
[illegible]
[illegible]
[illegible]

・万葉ふいてことをこうり
河すこし・河うり・川口・
・ふ川・谷河・かそ谷川・川ふ
・川あこ・川風 川雪・
・川藻・川糸・川あさ
・うく・水ひ川・川く・
・川と・淵・汀河とあ波
多

○淀

うぢせ 万葉七六
川うぢ 新古
大井の 家集
大河淀 万葉
まつ河七瀬の淀
肥前のくあめ
川 肥前のくあめ
まつ河七瀬の淀なる
山河淀川 いつく淀川
同

七瀬の淀 万葉 あすくなかみ
同

○淀

うぢ瀬 万葉
七くのうぢ瀬の思ひ
うぢ淀 万葉 うぢこの橋のうぢ
うぢ淀 家集 みうぢ淀
昔うぢそねうぢ橋も

○池

池のさまを　さあることばにて
名門言　　とぢ池也池のさまをいふ枕詞にもよめり
　　西行

この池の
あいよせく池 新六
この尾の行わのよう
山ぢの三原 支本 山ぢのうの高々と
たとやく池 新六 柳
あらく 新六 みつ
まろ池 行え
池のいづ 同 いほて池の
家集 おいろ池 みのうら池のひ
池のこころ 池のこ中 とこ
心の池 新 支本
池のつひ 池浦 くろ
池の面 池名

その池 支本
こころの池 家集 百葉
池のつら 支本
池の
しるれる 新六
池そこ
池のうら 支本
池べ 百葉
・万葉池のあることしのうり・万葉池の白ろき
ひとり 八雲抄
・池の水・いまのこころ・
この池ろ・やこの池の・こころびろの
そこのあを・こころ・いまのこころ・
池の村ろ・いまのあるろ・池のうら・
池のうぐひ 山とら 万葉池ろ

○沼

○沖

以上ふ及所与

・泊のつくりもぬることいひつくりもぬ　八雲小抄　・あまの苫屋に旅ねするかな

○井

ここ井　さゝ波の井　新六　ゐそのの里のゐ井　井の名にもいふもの井　ちゐの二方葉　ゐ井のやそのゐ井　歌　ゐのくまもゐ井の水　玉の井　狭衣

○坑

坑 同上 夫木 ○みちのくやとをとりの坑向ひよこみどりなる野べ哉 ○坑 円 坑ごろ ○とり坑とよもく日も忘あまや坑ろく青苔の汁 家長 神のつく ○家集 ○ふることをやく神と坑とつくふることくて ○人めつゝ ○八雲御抄 人めつゝ ○ちかつ ○つゝ人めつゝ ○ちかつ ○万葉 ○坑のつゝ ○万葉 ○ふし坑の坑もさすが ○円 ○坑ろく ○ふし坑の坑もさすが ○家長 ○坑とくとくみ坑とくとくみ

○水

みの 歟 ○みのくりゆ ○みのくりゆ ○ふりくとくとくと

波　波の門よ出

○波

なみ波　夏来
こちふけよとも思ねど浪ぢ分てや秋は来ぬらん　俊子女

さおしか　日
雄鹿なくなみだの滝の水上は数ならぬ身の音をぞ泣

波のいろ　数
波のいろの秋の滝の水上は数ならぬ身の音をぞ泣

さら波　日集
さら波ふりさけ見れば白雲の八重に重なる遠の里人

さら波　日
百集
さら波うち寄る袖をこの秋のあさこち吹
家集
こそ
の波

あゝ波　主体　あゝ浪のうをとる男のさそふもろ
波のあや　波の縁　　海人
浪探り　浪のあやよるこ　　万代
よるこ波　家の浦むこのよ
浪石　あゝ後の出立ちのりうる波のりやこそ
のりうる波　あゝ後の出立ちのりうる波のこと
ふりくる雨こそ　あゝ後の出立ちのりくゆすうる波のこと
すゝ波　神言
いう波　　神言
　　寿六
波むこのふ
浪探　浦のふ和うる波の
うらゝ　寿六
よこ波　寿六
ゆよとれ波　ゆよとこと
古今
こうろうこの浪こと

あごろ　　八百よろ秋の海波あゝこをいなこうこゝ
　　古今
あこ波　　寿六
浪あこ　　主体　浪のあも浪あこ
　　万葉
・こう波　万葉　・あこ
あゝ波　万葉　・いやちこ
あゝあこ万葉　・いこ波　万葉浪波　・ふく波
・まく波
・浪風　・あこうあこ
まくあこ　・あこうこうあこ　・こう浪　・こま浪　・こう波　・ゆくあこ　・
浪こうこゝ　・あこうこうこ　・浪こう神　・あゝいこうあこ　・
あるこ　浪よこうこそこ　・あゝこのあこ　・浪波
み君並し

・さゝあこ・タあこ・ゆあ・・砂こすあこ・こゝ波
こゝろ
ゐゝれ　江こ女波ち

○塩

塩ぢもこ　志ろとてー八池の志ろこゝ
添民あり
ろ浪い三ろこ
りあの　文末　くこあ流りあのこ
ろも　百葉　すまの浦塩やこゝ
塩や　あまの一
こゝぬ　塩やこゝれこ
塩こゝ　松風　浦人のこあれ公母ふ塩でゝれ波こん　後拾小方
塩ふ　末六　志ゐむふとの漆のあれ江ふ粒こゝ来て沖こゝやふ　夫後
ゐこ波　塩石　あこゝ浪ゐこ波やこゝんあこゝもやこそ　後拾

あさ枚　家集　あゐてこゝや浪い行こゝも　遠き浪
こゝ　文末　あさ波こゝ　塩にこゝ　ゐゐ久波のこゝひ　ゐこて
夕塩こゝ　新六　夕塩こゝ　ゐゐふこゝ　ゐこゝ
志ゐひ　いと物こゝ　ゐこゝ
志ゐ　家集　ゐこゝ
ぐゝり　ようひのまの月こゝ
ゐゐ久こ　新六　すまのあまの釣あ
こゝく塩　みゐく　志後
八志ゐ
日
八塩の釣こゝ
こすこゝ　文末　こゝ波こゝ　初後
日　ゐゐ久こゝ　こすこゝ
塩ゝれ　こゝみはいこゝれ塩江の塩ゐれよこゝて　後
志ゐざゐ　八やこゝ　ゐゐ久こゝ　浦浪　後
一カ条　志ゐやさゐよいこゝ

うしまつか　浦路
　　文永
　　文永
　　文永

三冊之内

矢澤精平

